

柔和な剣・柔和な者

駒場エデン教会牧師

小野派一刀流宗家 笹森 建美師

聖書：マタイによる福音書 5章6節

義に飢えかわいている人たちは、さいわいである。彼らは飽き足りるようになるであろう。

本日は皆さんと一緒に礼拝を守れますことを感謝しています。6年前にもお招きを受けましたが、その後、毎年剣道部の皆さんが私の牧会している教会兼道場に来てくださるので大変親しみを感じています。

教会が同時に剣道の道場で、牧師で同時に道場主で、しかも小野派一刀流、神夢想林崎流、直元流大長刀術の宗家を継いでいると言うと殆どの方が「ええっ？」と不思議そうな顔をします。皆さんはどう感じますか。多分そう驚かないのではないかと思います。何故なら清教学園もキリスト教の学校ですがスポーツも、なぎなた、剣道など武道も盛んな学校だからです。

剣道部の皆さんが東京にみえる時、日曜日にはまず午前中、駒場エデン教会で礼拝を守り、午後から一刀流の体験稽古をして全然違和感を持っていない様に見受けられますので、教会の人も道場の人もみんな喜んでいきます。

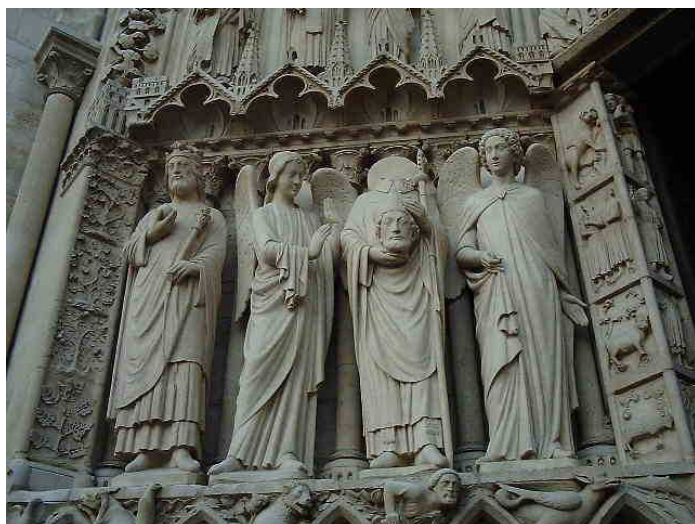
本当の所、武道と信仰は深いつながりがあります。武道も信仰も、真剣に生きることと死ぬことを考えています。真に強い武道家も、信仰者も普段は穏やかに、柔和に生きていますが、いざとなれば勇ましく悪に立ち向かい、信じることのためには命を投げ出すことも厭わないのです。

武士は、その戦いで自分の命が取られることが分かっているにもかかわらず戦わなければならない時は堂々と戦いました。河内長野と関わりのある南北朝時代に、足利尊氏と戦った新田義貞という武将がいましたが(1311~1338)彼は大勢の敵に囲まれどうしようもないときに、相手に首を取られる恥を受ける前に自分で自分の首を切り、穴を掘って埋め、目が見えないはずなのにその上にあぐらをかいて座り込んだそうです。「武士道とは死ぬことと見つけたり」と記した葉隠れが、その実例としてこの話を述べています。

武士道の精神を知らない人たちはそんなことあるわけがない、まさに「狂気の沙汰だ」

と言いますが、キリスト教信者には意外とよく分かることなのです。画面に映っている写真を見ていただきたいのですが、自分の首を持って立っている人が映っています。

このドニという人物はフランスがまだキリスト教を信じていなかった時に、今のパリに入り、キリスト教を伝えました。王様の厚い信頼を受けましたが、古くからいる家来に妬まれ、「王を神として拝め」という命令に従わなかつたため、死刑を宣告されました。小高い丘の上で首を切られた時、なんと彼は自分の首を拾い上げ両手に抱えて坂を下りて10*₀ほども歩いて行ったというのです。驚いたのは王様や家来たちで改心し信仰を持ったというのです。この人は自分が死ぬことによってパリを信仰に導いたのです。



聖ドニの像(ノートルダム寺院/パリ)

ちなみに彼が死刑になった山をモンマルトル - 殉教の山 - と言い、またこの写真は立ち止まったとされている所にあるノートルダム寺院のもので、正面玄関の上に飾られています。後世遺骸はサンドニ教会に移され、その名前はそのまま地名にもなっています。

イエス様ご自身、「もしお前が本当に神の子なら今十字架から降りろ」とののしる人々の前で、その人々のために祈りながら、十字架の死を選び取られたのです。その結果今日の教会があり、キリスト教があり、全世界に広がっているのです。死ぬことによって真の勝利をおさめることを知り実行しているのが武士道であり、キリスト教の信仰なのです。

イエス様ご自身、「もしお前が本当に神の子なら今十字架から降りろ」とののしる人々の前で、その人々のために祈りながら、十字架の死を選び取られたのです。その結果今日の教会があり、キリスト教があり、全世界に広がっているのです。死ぬことによって真の勝利をおさめることを知り実行しているのが武士道であり、キリスト教の信仰なのです。

聖書はイエス・キリストを最も柔和でへりくだった方と記しています(マタイによる福音書11章29節)。柔和な方こそ真に勇気のある行動が取れたのです。

小野派一刀流が求め教えるのも柔和さと謙遜です。剣の道に入り進んでいく過程を、「志道・入門・初心・未熟・熟練・上達・絶妙・円満」と教えています。極意に達するとは、誰にも負けない逞しく強い者になる、ということより円やかで柔和な円満な人になるということなのです。円満な人格を養うために剣を学ぶのが一刀流の目的です。信仰もそうです。信仰を持つとは優しく謙虚な人になることで、決して世界を支配するような権力者に

なることではないのです。イエス様も「あなたがたは人に仕えられる人になるのではなく人に仕える人になりなさい」と教えられ、「柔和な者は幸いである、その人は地を継ぐであろう」といわれました。地を継ぐとは人の世で求められる者、人々の輪の中心にいる人になると言うことです。権力や、武力や、経済力で他の人々を制圧するという事ではないのです。

小野派一刀流では円く柔らかく剣を使い、剣を地に置くことを学びなさいと教えます。後で演武を致しますが、小野派一刀流の極意の一つに五点というのがありますが、この技の目的も最後に自己主張を止める柔らかさに置いています。その目的を分かりやすく説明するために、五行説にのっとり木、火、土、金、水で表しています。水は低きにつき、方円の器に従います。しかしいざとなれば岩をも地をも動かす力を発揮します。またノアの洪水の様に地上の悪をすべて洗い流し清める働きをします。こんなにも剣の道、武道とキリスト教信仰とは相通じる所がたくさんあるのです。是非皆さんも柔和な人となるために信仰と武道に励んでほしいと思います。あまり話が長くなっても何なので説明を加えながら演武を致します。

演武 打方 笹森 建美 17代宗家
仕方 清水 公大 直門(剣道教士7段)

演武項目

組太刀 一つ勝、向突、鏢割、下段の霞、脇構之付、二つ勝、陰刀

高上極意五点 妙剣、絶妙剣、真剣、金翅鳥王剣、独妙剣

立会抜刀 夕陽、電光、流星、波返、竜巻



妙剣



独妙剣